

情報通信月間参加行事 報告書

行事 ID	G012	行事名	2020年度春季(第42回)情報通信学会大会及び国際コミュニケーション・フォーラム
行事形式	一般行事	主催団体	公益財団法人情報通信学会
開催日	2020年7月4日(土)		開催場所 オンライン開催 学会大会: Zoom Online Meeting、フォーラム: Zoom ウェビナー
行事参加者数	学会大会: 124名、フォーラム: 178名		Webサイト URL http://www.jsicr.jp/operation/taikai/index.html http://www.jsicr.jp/operation/forum/index.html

行事实施概要・アピール等

新型コロナウイルス感染が拡大している状況を鑑み、本行事についてはZoomを利用し、オンラインにて開催した。

1. 情報通信学会大会: 情報通信政策、AI、コンテンツビジネス、メディア、ソーシャルネットワークサービス等に関する研究発表がなされ、各ミーティングルームでは活発な議論が交わされた。また、個人研究発表の学生の部では、優秀な研究発表1件に、本学会より発表賞を授与した。今後も若手研究者の研究の場として、よりよい機会を提供していきたい。

2. 国際コミュニケーション・フォーラム: 「ポスト・パンデミックにおける博覧会とツーリズムー2025大阪・関西万博でICTに期待されるもの」をテーマにシンポジウムを開催した。新型ウィルスによるパンデミックが世界を覆ったことにより、2020年に予定されていた二大メガイイベントである東京オリンピック・パラリンピックとドバイ国際博覧会はいずれも1年の延期を余儀なくされた。2025年には大阪・関西万博の開催が予定されており、来るべき社会のモデルとしての博覧会には、具体的に何が求められるのであろうか。本フォーラムではそうした博覧会等の担い手となってきた方々、そして来場者、あるいは研究者として人々の動きを見つめてきた方々にご参集頂き、変化ののちのあるべき姿について議論した。

登壇者は以下の通りである。

基調講演「ポスト・パンデミックにおける博覧会とツーリズムー2025大阪・関西万博でICTに期待されるもの」齋藤精一(ライゾマティクス・アーキテクチャー主宰)

パネリストによる発表

「COVID-19以後の博覧会」井出明 (金沢大学国際基幹教育院准教授)

「コロナ禍における展示空間の拡張(?)—ミュージアムのオンライン化の模索と葛藤」

村田麻里子(関西大学社会学部教授)

「博覧会を訪ねて40年目」二神敦(博覧会愛好家)

パネル・ディスカッション

パネリスト: 齋藤精一、井出明、村田麻里子、二神敦

モデレータ: 岡田朋之(関西大学総合情報学部 教授)

ーロードバイス・・・セル内で改行する時はAltを押しながらEnterを押してください。

The screenshot shows a Zoom meeting interface. On the left, a video feed shows a man with glasses speaking. On the right, a presentation slide is displayed. The slide title is '2. 課題と方法' (2. Issues and Methods) and is labeled '2/3'. The slide content discusses copyright approaches for VTubers.

2. 課題と方法 2/3

「肖像権アプローチ」
VTuberのCGアバターをその「中の人」の「肖像」と捉え、その利用を肖像権の支配下に置く可能性を模索する。CGアバターに対するコントロールを、本人の人格権の範疇あるいは延長線上に捉える。

「著作権アプローチ」
CGアバターは「著作物」に該当するので、著作権・著作人人格権により保護される。しかし、VTuber自身が著作者・著作権者でない場合、VTuber(肖像本人)の権利・利益は十全には保障されない。